

元來、人間じんげんが遊んでばかり居られるものではない。現に今日でも金持きぬぢで用もちのない人々は皆な退屈たいきゅうして困つてゐる。随つて遊園ゆうえんに行つたり、玉突たまつきをやつたり、菜園ないばんいぢりをしたり、謂いふる道樂どうらくをこしらへて其日そのひを送つてゐる。相當あだひな時間、相當あだひな手足の勞働ろうじょうをやる事は誰だれに取つても必要ひつぱうであり愉快がくらくである。只それを職業しょくぎとするのは、今日では耻辱はずのうであり苦痛くうつうである。だから金持きぬぢは道樂どうらくとしてのみそれをやるのである。

金持きぬぢばかりではない。少し教育きょういくでも受けた者は皆な同じ手足の労働ろうじょうを避けようとする。然しそれも小紳士しょうじんしまがひの面目おもてを保ほち、比較的短ひかわいい時間、比較的樂な仕事をして生活せいかつしようとするに過ぎないので、若し相當あだひな時間、相當あだひな手足の労働ろうじょうをして相當あだひな報酬ほうしゅうを受けるならば、決してそれを厭うらがはない。だから新社會しんしゃくわいに於いては、誰も短時間の手足の労働ろうじょうを厭うらがふ者はなく、最も高尚こうじょう相處あいしょしない。

五

又手足の労働ろうじょうと體育たいいくの労働ろうじょうとに論るなく、體育たいいく事が正義せいぎとなり名譽めいよとなれば、直接せきせつには可なり不愉快ふりょくな仕事しごとでも、又それが爲に多くの報酬ほうしゅうが得られなくとも、人は隨分まことによく働くべき性情せいじょうをも有してゐる。今日の社會しゃくわいでは、一般に餘り多く不正ふせい不義ふぎ不公平ふひょうが行はれてゐるので、自分じぶんばかり正直忠實じょうじょちゅうじに働くのは馬鹿ばか々々しい云ふ感じの先に立つ場合ばんが多いが、それでも或種の人々の中には、或は社會の利益りやくの爲に、或は自己の満足まんぞくの爲に、或は少數の知己ちじの爲に、或は後世の批評ひひやうの爲に、貧困侮辱ひんぐんじゆりょく、過勞こらう等の苦痛くうつうを嘗め盡つくしながら、全く厭うらがいられざる事業じぎょうの爲に、孜々汲汲しづしづとして努力してゐる者もある、甚だしきは身命みみやうを擱すわつて悔くやいざる者すらある。

それを考へると、將來じょうらいの新社會しんしゃくわいで、萬事に公平ひょうめいが行はれ、人が皆な體和親睦たいわしんむつし